



日本体育・スポーツ経営学会 会報53号

Japanese Society of Management for
Physical Education and Sports
Newsletter No.53 July.2008
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsmpes/>

<ごあいさつ>

副会長 松永 淳一(長崎大学名誉教授)

今年もいよいよ梅雨の季節を迎えました。温暖化現象による異常気象、ミャンマーのサイクロン、フロリダのハリケーンによる大災害など、長崎大水害の経験者としては、予測を超えた自然災害を懸念しているこの頃です。

会員の皆様には日頃より本会の発展のためにご協力いただきありがとうございます。特に本会の運営の為に寸暇を惜しまずご尽力下さっている、事務局および常務理事の方々には衷心より感謝申し上げます。お陰様で順調に今年度の事業も展開されております。

さて、会報53号は昨年度大阪体育大学における学会の報告が中心となっています。残念ながら私は第1日のシンポジウムしか出席できませんでした。残り2日間も盛会のうちに終了したと聞き及んでいます。大阪体育大学の実行委員の皆様方大変ご苦勞様でした。そして、ありがとうございました。

最近、この学会大会に限らないのですが、私にとって非常に残念に感じていることがあります。それは、口頭発表の部で、学生による発表が大部分を占め、指導教員あるいは中堅のリーダー格教員の発表が非常に少ないことです。この件については九州体育・スポーツ学会でも悩みました。確かに本学会は若手研究者の発掘、育成も目的の一つですが、やはり学生にとっては、指導教員やリーダー格教員の研究発表を見聞きすることが、研究の行い方や表現方法を学び、自己成長の範になると期待するからです。では私たちの中堅教員時代はと言いますと、日本体育学会では多くの領域の有名教授の研究発表やキーノートレクチャーを渡り歩き、どの会場もその時間

は超満員でした。恩師の宇土正彦先生といえ、日本体育学会、本学会とも必ず発表されるので、私たちも刺激を受けて発表せざるを得ず、毎回とは言えませんが、体育経営管理と体育科教育のどちらかで極力発表したものでした。

最近、口頭発表が減少したのは、大部分の大学の業績評価で口頭発表が評価対象から外され、論文発表が評価対象となる傾向にあるので、口頭発表を省略し、論文作りに専念しているからだと考えられます。しかし、優秀な論文とは多面的に良く吟味された論文ではないでしょうか。論文作成について「自らの研究をまず口頭によって公表し、他者の意見やアドバイスを拝聴し、それを基に修正を加え、深化、発展させて研究論文として完成させる」という手順の指導を受けた覚えもあります。その意味からも口頭発表を通しての大きな討論を推奨したいと思います。

「あいさつ」でこのような説教じみた文章を書くことは重々失礼だと承知しておりますが、副会長として最後の任務と考え、本会の発展、活性化のために日頃感じていることを述べさせていただきました。

最後に、会員の皆様のご健勝と益々のご活躍を期待して、あいさつといたします。



＜報告＞第31回学会大会報告

■学会大会報告・全体総括

平成20年3月16日（日）から18日（火）の3日間、日本体育・スポーツ経営学会第31回大会が大阪YMCA（3月16日）と大阪体育大学（3月17日・18日）を会場に開催された。参加者は、学会員、一般参加、一般学生など3日間で約150名であった。主なプログラムは、次のとおりである。

＜3月16日（日） 会場：大阪YMCA＞

- 1) 特別講演：「地域効果を創造するメガ・スポーツイベントのマネジメント」
- 2) シンポジウムⅠ：「世界陸上大阪大会の資産（レガシー）とその運用」
- 3) 総会

＜3月17日（月） 会場：大阪体育大学＞

- 1) 一般研究発表・ポスター発表
- 2) シンポジウムⅡ：「"競技力"を核とした地域イノベーション」
- 3) 一般研究発表
- 4) 懇親会

＜3月18日（火） 会場：大阪体育大学＞

- 1) スポーツ交流会
- 2) 一般研究発表

大阪では、平成19年夏に第11回IAAF世界陸上競技選手権大阪大会が開催されたことから、本学会大会ではメガ・スポーツイベントと都市に焦点を当てた特別講演とシンポジウムを企画した。また、研究発表では、35題の発表に対して活発なディスカッションが行われた。以下、特別講演と研究発表を中心に報告する。

1. 特別講演

メガ・スポーツイベント経営とスポーツスポンサーシップ研究の第一人者である、アメリカ・ノーザンコロラド大学教授、デイビッド・スタットラー博士を招き、特別講演「地域効果を創造するメガ・スポーツイベントのマネジメント」を開催した。スタットラー博士は、オリンピック開催が歴代のホスト都市にもたらした功罪について、多くの事例に基づいて説明した。特に、2004年アテネ・オリンピックの計画や準備の遅れによる運営の混乱や、開催後

実行委員長 福田 芳則(大阪体育大学)
 実行副委員長 藤本 淳也(大阪体育大学)

のスタジアム維持管理費とごみ処理問題など、ホスト都市への負のインパクトの紹介は非常に興味深い事例であった。そして、オリンピック開催後に残った資産をどのように都市とスポーツの発展につなげていくのか、そのプランを開催前に十分に議論して完成させておくことの必要性和重要性を強調した。また、特別講演後の世界陸上大阪大会に焦点を当てたシンポジウムⅡでは、「大阪や関連組織に残された資産を、事前の計画を踏まえて効果的に運用し、都市とスポーツの発展につなげてほしい」とコメントした。

2. 研究発表

研究発表は、一般研究発表31題、ポスター発表4題であった。内訳は、スポーツ組織の経営に関する研究が15題（地域スポーツクラブ：6題、NPO：3題、運動部活動：3題、プロスポーツ：2題、競技団体：1題）、スポーツ消費者行動に関する研究10題（スポーツ観戦：5題、レジャー・レクリエーション・スポーツ参加：5題）、スポーツイベント経営に関する研究3題、スポーツ施設経営に関する研究3題、その他4題である。この様に、発表された研究対象の多様性から、スポーツ経営学研究が求められる領域の幅広さと可能性の高さをあらためて感じた。また、発表者の半数以上を占めた大学院生には、継続的な研究とその学会発表を期待したい。

最終日の朝、大阪体育大学の大学院生が企画したスポーツ交流会を開催した。種目はフットサルとペタンクで、多世代・多所属大学の約50名の参加があった。会場となったラグビー場（人工芝）は、研究発表やシンポジウムでは見られない明るい笑顔と大きな歓声に包まれた。運動やスポーツ実施によるコミュニケーション促進の効果を実感した、楽しいスポーツ交流であった。

最後に、徳島大学、びわこ成蹊スポーツ大学、大阪国際大学、大阪YMCA、そして大阪体育大学に所属する学会員で組織した実行委員と、大会運営を支えた学生・大学院生スタッフに感謝したい。そして、学会大会の準備から運営までサポートいただいた大会役員、学会事務局、質の高い研究発表とディスカッションで大会を成功に導いてくれた参加者の皆様に感謝申し上げます。

■学会シンポジウム I 「世界陸上大阪大会の資産（レガシー）と運用」

原田 宗彦（早稲田大学）

2007年に世界陸上大会が開かれた大阪は、これまで大規模・国際的なスポーツイベントに無縁の地であった。それが、97年のなみはや国体から始まり、2001年のオリンピック招致運動や東アジア大会の開催を通して、スポーツを意識した都市へと姿を変えていった。その延長線上にある2007年世界陸上大阪大会は、どのようなレガシーを残したのか。その答えを探ることが本シンポジウムの目的である。

3人のシンポジストの一人である杉山孝彦氏（財団法人IAAF世界陸上2007大阪大会組織委員会総務局企画調整室長）は、大会開催にあたり、市民応援団、なにわ応援団、吉本応援団といった地域に根差した3つの応援団をつくとともに、5万人の子どもを招待し、さらに国際陸連が設立したグリーンプロジェクトを実施するなど、これからのレガシーに結びつく様々な事業を展開したことを報告した。

続いて神戸大学発達科学部の山口泰雄氏は、大会を支えるボランティア・マネジメントにおいて、ボランティア推進委員会が核となり、延べ3万名にもぼるボランティアの募集・教育・マネジメントなどの支援活動について報告した。大阪にも、1997年なみはや国体において、キャラクターの「モッピー」の名前をとった「モッピークラブ」というボランティア組織が継続しており、レガシーとしてのボ

ランティア精神が脈々と根付いている。

最後の大阪体育大学の藤本淳也氏は、アメリカチームが練習会場として使用した大阪体育大学において、キャンプ地としての受け入れ業務を通して、学生ボランティアが成長するとともに、練習風景を地元住民に公開し、クリニックやサイン会を通して、大学と地域の連携が強化されたことを報告した。

その後のディスカッションにおいては、会場から多くの質問が寄せられ、メガ・イベントの開催における、行政、地域、スポーツ関係者、そしてスポンサー企業等の協力が組織的な支援の重要性が再確認された。その中には、ボランティアのキャンセルの問題や、これまで大阪で行われた国際大会のレガシーの行方など、核心をついた質問もあり、議論も大いに盛り上がった。

世界陸上のようなメガ・スポーツイベントは、大会前の準備期間から、大会を一過性のイベントに終わらせないためにも、大会のレガシーを極大化できる戦略を埋め込んだ開催概要計画をつくることが重要である。今回のシンポジウムは、世界陸上という魅力的なテーマであったが、シンポジウムのコーディネーターとして、もう少し研究素材としてこのイベントをとらえ、具体的な研究テーマを浮き上がらせるように、論点を整理すべきであったという反省も残っている。

■学会シンポジウム II 「“競技力”を核とした地域イノベーション」

富山 浩三（大阪体育大学）

日本体育・スポーツ経営学会第31回大会において、「競技力を核とした地域イノベーション」というテーマでシンポジウムを実施した。シンポジストは、上原光徳氏（大阪エヴェッサ）、宇治収氏（三洋電機）、南木恵一氏（株式会社メディアプロ）の3名である。プロチームや実業団チームは高い競技力を有するチームであり、そのようなチームや選手の持つ求心力を生かした地域スポーツ振興のあり方について探ることが、シンポジウムの目的である。

まずはじめに大阪エヴェッサの上原氏からお話をうかがった。大阪エヴェッサは、大阪をホームタウンとして設立されたプロバスケットボールチームである。七福神の一人で商売繁盛をもたらす神である「恵比寿」にちなんだチーム名となっており、大阪に根付いたチームであることを強くアピールしている。地域密着ではなく「地域自生」のコンセプトをかけた、より積極的に地域に出かけていきながら事

業展開を行っている。チーム設立3年目の今年は、ホームアリーナを設定するのではなく、大阪府下全域に移動して試合を開催するという方策をとっており、地域の街おこしにも寄与している。エヴェッサの3つのコンセプトである「強いチーム作り」「普及強化」「地域貢献」にもとづいて運営されている様子が報告された。

次に、三洋電機のバドミントン部について、三洋電機文化スポーツ推進部の宇治氏からお話をうかがった。三洋電機バドミントン部は近年では「オグシオ」の活躍によって一気に注目を集めているが、地域活動としては1992年にジュニアチームを設立し、三洋電機を引退したOGを指導者とした活動を展開している。さらに、地域の小学校への出前教室を実施するなど地域への活動は年々充実してきている。「なみはや国体」が1997年に大阪で開催されたが、バドミントン競技は三洋電機の本拠地である大東市で開催されたことから、大東市の教育委員会

との連携を深め地域での活動を拡大している。さらに、子どもたちの技術レベルにあわせて、選手コースや準選手コースなどを設定し、活動している事例が示された。

最後に BC リーグ所属富山サンダーバーズの運営会社である株式会社メディアプロの南木氏より報告をいただいた。富山県の総合型地域スポーツクラブの設立に、広域スポーツセンターの立場で関わってこられた経験のある南木氏の活動は、あこがれのシンボルであるプロチームの存在を明確に見据えており、また、単なるあこがれではなく目標を実現するための指導者システムや、選手養成システムなどの構築に取り組んでおられることが示された。富山で活躍したプロ選手が総合型クラブで指導に当たるような、そんな思いを形にされながら、総合型クラブとトップチームの連携事業についてご報告された。

以上のシンポジストからの提言や、ディスカッションも含めて競技力を核とした地域イノベーションを考えると、プロや実業団チームは、以前と比較して多くの地域住民を意識した活動を行っている。それだけスポーツと地域密着といったコンセプトが浸透してきていることだと言える。チームが積極的に地域に近づいているのに対して、それを受け止め、チームの活動を住民の日常的な活動に落とし込んでいく受け皿が地域に不足している。そういう意味では、南木氏の取り組んでおられるような、地域スポーツクラブとプロスポーツをつなげるシステム作りの取り組みには注目すべきであろう。プロチームの存在は地域住民には大きなインパクトを与えることから、チームのファンサービスという視点ではなく、日常的な住民の活動との関連づけを深めていくための仕掛けが求められている。

＜ご案内1＞今年度のスポーツ経営フォーラムについて

企画委員長 川崎登志喜(玉川大学)

平成 20 年度の経営フォーラム（研究集会）についてご案内申し上げます。

今年度は例年通り 3 回の研究集会を計画していますが、32 回についての概要ができあがりまのでご案内申し上げます。皆様には是非ご参加いただけますようお願い申し上げますと共に、お近くの

関係者や関心のある方々にご紹介いただければ幸いです。

また、33 回、34 回につきましては企画が決まり次第、またご案内させていただきますが、それぞれの申し込み方法等、詳細につきましては改めて案内をさせていただきます。

～ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ *

◆第32回研究集会 スポーツ経営フォーラム

テーマ：「総合型地域スポーツクラブの鍵をにぎる人と組織ーボランティア組織をマネジメントするー」

趣 旨：

“総合型クラブの育成・発展は人にある”ということができるが、クラブ育成の実践をめぐるにはスポーツ指導者をはじめ、クラブ運営に携わる人材が確保できないといった悩みや、中心となる人材が見つからない、一部の住民がクラブ運営を任されてしまっているといった課題が指摘されている。

クラブ会員が集まるクラブ、指導者やクラブ運営委員が集まるクラブとはどのようなクラブなのであろうか。この問いは、総合型クラブの設立から将来にかかわるマネジメント課題であるとともに、総合型クラブが紡ぎだす地域の未来にかかわる重要課題でもある。

一方、住民の自発性に基づいた総合型クラブのようなボランティア組織のマネジメントでは、協力者の参加の自由度の高さから、組織的な協力体制を作り出すことが難しいとされる。総合型クラブのボランティア活動の中で、関係者がいかに自己実現をし、住民の人間関係を創造していくかは総合型クラブのマネジメントの大きな課題となろう。

本フォーラムでは総合型クラブをめぐる人材のマネジメントに焦点を当て、その確保やネットワークの方法などについての情報交換の場としたい。そして総合型クラブが、“依頼型”“動員型”のボランティア組織に陥らないためのマネジメントの可能性を探りたい。

日 時： 平成20年12月6日(土) 13:00～17:00

会 場： 東京体育館 第1会議室

参加費： 1,000円

◆第33回研究集会 スポーツ経営フォーラム in WASEDA

テーマ：「プロスポーツ経営の研究」に関する講演及びシンポジウム(検討中)

日時：平成21年1月10日(土) 13:00～17:00

会場：早稲田大学東伏見キャンパス 79号館(STEP22)205教室

参加費：未定

～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～

＜ご案内2＞編集委員会からのお知らせ

■論文公募 (Call for papers) について

編集委員長 清水 紀宏 (筑波大学)

～*～*～*～*～*～*～*～*～*～

「体育・スポーツ経営学研究」第23巻では、

新しい試みとして、特集テーマに関連した内容の論文を広く会員の皆様から公募することにいたしました。投稿していただいた論文は、通常の投稿論文と同様の査読プロセスを経て採択が決定されます。第23巻の特集テーマは「スポーツのための経営」です。原稿の種類は、必ずしも原著論文に限らず、事例報告や問題提起等でも構いません。どうぞ奮って投稿下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

◆特集テーマ「スポーツのための経営」

本学会の英文名称が、「Japanese Society of Management for Physical Education and Sports」であることは周知の通りです。この名称の通り、本学会における学術研究及び啓蒙活動をはじめとする諸事業では、あくまでも体育・スポーツの発展をめざして取り組むことが大切にされてきました。体育・スポーツの発展をどのように捉えるか、その考え方や立場は多様でしょうが、ここでは、「スポーツの価値を高めること」に焦点化したいと思います。近年、体育・スポーツ経営をめぐる競争状況が激化するにつれ、スポーツの発展よりも組織の生き残りを優先させようとする現象が見られるように思います。体育・スポーツ経営の理論や研究は、特定の経営体の存続・繁栄に資する即効的な集客戦術や収益向上策に終始することなく、スポーツという文化そのものの価値を高めることに貢献するものであることが必要です。

そこで本特集では、高い公共性を有する文化として、スポーツの価値を高めるにはどのように経営論、組織論、事業論、マーケティング論等々を展開したらよいかについて考えたいと思います。論文の対象とするスポーツ経営のフィールド(学校・地域・企業等)、理論的研究・実証的研究の別は問いません。また、スポーツの価値を高めたり広めたりした(あるいは汚した)事例の報告や問題提起でも構いません。

投稿〆切：平成20年11月30日(日)

原稿の形式：「投稿の手引き」にしたがってください。

但し、欧文抄録は不要です。「投稿の手引き」は、体育・スポーツ経営学研究第21巻あるいは本会HPに掲載されています。

掲載号：第23巻(平成21年3月刊行予定)

※投稿原稿の表紙に、特集テーマへの投稿であることを明記して下さい。

◆投稿論文の投稿期限について

体育・スポーツ経営学研究への投稿は、常時受け付けていますが、第23巻への掲載をご希望の場合には、下記の期日までに編集事務局へ原稿をご送付下さい。この期日を過ぎて投稿された論文は、原則として第24巻以降の掲載となります(但し、査読の結果、「掲載可」として採択された場合には、掲載証明書を発行します)。

なお、投稿に際しては、可能な限り電子投稿をお願いいたします。

投稿〆切期限：平成20年11月30日(日)

送付先：編集委員会事務局

inamikos@main.teikyo-u.ac.jp

〒192-0395 東京都八王子市大塚359

帝京大学文学部教育学科 浪越 一喜



＜ご案内3＞第32回学会大会のご案内

永田 秀隆（仙台大学）

第32回学会大会の日程・会場についてお知らせいたします。

日程は平成21年3月18日（水）から20日（金）の3日間を通して行ないます。21・22日は土日です。学会後、東北の各地域で観光やレジャーは

いかがでしょうか？

また会場は、仙台市にはない仙台大学において開催いたします。仙台駅・仙台空港からは約1時間かかりご不便をおかけしますが、万障お繰り合わせの上ぜひともご参加くださいますようお願い申し上げます。

＜会員の声＞

■「地域に学び、進化する石川から」

藤谷 かおる（金沢大学）

2008年4月、金沢大学は、従来の8学部から3学域・16学類に生まれ変わりました。「学類」という幅広い枠組みでの入学、基礎を学んでから専門領域を決める「経過選択制」を特色としています。地域創造学類健康スポーツコースでは、スポーツ経営学・演習・実習、健康スポーツインターンシップ等、現場での実習教育を重視しています。人間や運動に関する基礎理論の修得と、地域でのスポーツ指導や組織運営等、健康な地域づくりのための実践力の育成を目指しています。石川県内でスポーツ経営学を学べる大学は、設置順に、金沢学院大学経営情報学部スポーツビジネス学科（2006年4月）、星稜大学人間科学部スポーツ学科（2007年4月）、北陸

大学未来創造学部国際マネジメント学科スポーツエリートアカデミーサッカーI（2007年4月）と急速に拡大しています。

さらに、「BCリーグ（プロ野球独立リーグ）の発足（2007年4月）」、スポーツ振興の中核的拠点「いしかわ総合スポーツセンターの開館（2008年4月）」、「スポーツ・フィットネスクラブ激戦区北陸と言われるほどの建設ラッシュ」等、地域住民のスポーツ意識の高まりと支援・活動の広がりが身近に感じられるようになりました。世界に開かれた文化・伝統の「いしかわ」から、スポーツが個人と地域社会の健康を支える「いしかわ」へ、いま、地域に学び、進化する石川県です。



写真 白山など山々の連なりをイメージした「いしかわ総合スポーツセンター」と藤谷研究室(4年生5名)

■地球温暖化とスポーツ

山本 達三（愛知学泉大学）

地球温暖化がいよいよ進行し、昨年8月16日私が暮らしている愛知県のとりの岐阜県多治見市では40.9℃の気温が観測され、最高気温が74年ぶりに更新されたようです。本屋に行くと地球温暖化にまつわる本もたくさん出版されていますし、元アメリカ副大統領、アル・ゴアの「不都合な真実」や東大教授、山本良一さんの「温暖化地獄」などを読むと、もうポイント・オブ・ノーリターン（手遅れになる「時点」）をすでに過ぎてているような記述もあります。心配です。2004年には60名の科学者が、ブッシュ政権では政策形成において科学的知見が反映されず、地球温暖化を憂慮する声明が出されているそうで、その署名は9000名を超え、その中には49名のノーベル賞受賞者が含まれているそうです。われわれスポーツに携わる者も人ごとではないですね。毎年1ヶ月弱は大学のスキー実習などで雪山に滞在していますが、本当に降雪量が減っています。近い将来、本州ではスキーやスノーボードができなくなるのではないのでしょうか。私が子ども

の頃、スキーに行くと、スキー場に着くまでは道路脇は4～5メートルの雪の壁がありましたが、そんな光景は近年ほとんど見たことがありません。映画「day after tomorrow」も架空の話ではないことを人類は理解しているのでしょうか。日本体育・スポーツ経営学会からも地球温暖化に取り組む活動ができるといいですね。



<平成19年度総会報告>

平成19年度 総会議事録

日時：平成20年3月16日(月) 16:45～17:45

会場：大阪YMCA講堂

1. 議長選出

議長に菊池秀夫氏（中京大学）を選出した。

2. 報告事項

1) 平成19年度 事業報告及び収支決算報告

柳沢理事長より資料に基づき事業報告がなされた。続いて、清水総務委員長より資料に基づいて収支決算の報告がなされた。これについて幹事より決算は適正である旨、監査結果の報告がなされた（別表1参照）。

2) 平成19年度 学会賞について

中西純司氏（福岡教育大学）の「民間スポーツ・フィットネスクラブにおけるヒューマン・サービス組織特性に関する実証的研究」に学会賞を授与する旨、報告がなされた。

3) 体育・スポーツ経営学研究の編集について

清水編集委員長より、発行準備中第22巻について発行が遅れる旨が報告された。また、学会HPへの論文全文掲載(21巻以降)、学会費用による欧文校閲の実施、経営学研究の価格改定(2,000円)、バックナンバーの電子化と販売について報告された。

4) その他

柳沢理事長より、日本学術会議の改組に伴って設立準備中である(仮称)健康スポーツ科学関連学術連合に加盟する旨、(財)ミズノスポーツ振興会研究助成に2件の応募があった旨が報告された。

3. 審議事項

1) 平成20年度事業計画案及び収支予算案

柳沢理事長より、資料に基づいて事業計画の説明があり、承認された。続いて清水総務委員長より、資料に基づいて収支予算案の説明がなされ、承認された(別表2参照)。

2) 会則の改正及び規程の新設・改正について

清水総務委員長より、資料に基づいて会員種別新設(名誉会員、学生会員)に関する会則改正の説明がなされ承認された。続いて、【会長、副会長の選出方法に関する内規】の新設と、内規新設に伴う【理事選出方法に関する内規】の一部改正について説明がなされ、承認された。

3) 役員の変更について

理事会より、会長 八代勉氏(東亜大学)、副会長 阿保雅行氏(東京外国語大学)、松永淳一氏が候補者として示され、承認された。なお、規程の改正に伴って、任期が1年となることが確認された。

別表1 平成19年度収支決算報告

【収入】		3月8日 現在		
項目	平成19年度予算	平成19年度決算	増減(▲減)	
前年度繰越金	1,612,584	2,167,172 *1	554,588	
会費				
正会員 会計年度以前	300,000	60,000	▲ 240,000	
会計年度	800,000	445,000 *2	▲ 355,000	
賛助会員	50,000	50,000 *3	0	
入会金	10,000	1,000 *4	▲ 9,000	
事業収入	150,000	160,318 *5	10,318	
特別会計繰入金	10,070	10,102	32	
合計	2,932,654	2,893,592	▲ 39,062	

単位:円

*1 総会承認済繰越金(¥1,612,584)+第30回大会収入(¥504,528)+年会費21人分(18年度16名¥80,000、旧年度分5名¥25,000)+入会金1名分(¥1,000)+賛助会費未納分(-¥30,000)+研究誌印刷費超過分(-¥29,000)+研究誌発送費超過分(-¥13,040)+通信費削減分(¥5,100)+研究誌編集費削減分(¥10,000)+理事会会議費削減分(¥1,000)

*2 会計年度分(87名/241名)、次年度分(2名)の合計額

*3 納入見込額 現在納入依頼中

*4 1人×¥1,000

*5 第31回研究会収入(¥4500)+第29回研究会収益(¥17,930)+総合型テキスト印税(¥75,888)+研究誌販売代金(¥62,000) なお、第31回学会大会収益は含んでいない。

【支出】		3月8日 現在		
項目	平成19年度予算	平成19年度決算	増減(▲減)	
体育・スポーツ経営学				
通信費	10,000	1,070	▲ 8,930	
研究の発行				
編集会議費	100,000	66,040	▲ 33,960	
編集諸費	10,000	0	▲ 10,000	
印刷費	550,000	600,000 *1	50,000	
発送費	40,000	50,000 *2	10,000	
学会大会運営費	150,000	150,000	0	
会報の発行				
編集会議費	5,000	0	▲ 5,000	
印刷費	15,000	14,960	▲ 40	
発送費	15,000	20,000	5,000	
研究会の開催	60,000	60,000	0	
学会賞の授与				
運営費	10,000	5,000 *3	▲ 5,000	
選考委員会会議費	5,000	0	▲ 5,000	
記念品代	10,000	10,000 *4	0	
ホームページの運営	200,000	162,000 *5	▲ 38,000	
総務費				
理事会会議費	200,000	166,746 *6	▲ 33,254	
事務費	140,000	137,609	▲ 2,391	
機関誌CD化	50,000	50,000	0	
発送等人件費	50,000	50,000	0	
予備費	1,312,654	0	▲ 1,312,654	
合計	2,932,654	1,543,425	▲ 1,389,229	

単位:円

*1*2 未発行のため、平成18年度実績を参考に計上

*3~*5 見込みとして計上

*6 第2回全国理事会弁当・飲料代20人分の見込み額(¥20,000)を含む

2,893,592 円	—	1,543,425 円	=	1,350,167 円
今期収入見込み		今期支出見込み		今期収支見込み
726,420 円	—	1,543,425 円	=	-817,005 円

特別会計

【収入】		3月8日 現在		
項目	平成19年度予算	平成19年度決算	増減(▲減)	
定額貯金元本	890,000	890,000	0	
利息合計	6,230	8,978	2,748	
合計	896,230	898,978		

【支出】		(円)		
項目	平成19年度予算	平成19年度決算	増減(▲減)	
本部会計繰入	10,070	10,102	32	
合計	10,070	10,102	▲ 10,070	

単位:円

898,978 円	—	10,102 円	=	888,876 円
-----------	---	----------	---	-----------

別表2 平成20年度収支予算

【収入】			
項目	平成19年度予算	平成20年度予算	増減(▲減)
前年度繰越金	1,612,584	1,350,167	▲ 262,417
会費			
正会員	300,000	100,000 *1	▲ 200,000
賛助会員	800,000	890,000 *2	90,000
賛助会員	50,000	100,000 *3	50,000
入会金	10,000	40,000 *4	30,000
事業収入	150,000	350,000 *5	200,000
特別会計繰入金	10,070	10,100	30
合計	2,932,654	2,840,267	▲ 92,387
*1 20人@¥5,000- 未納会費の納入が進んだため予算減 *4 40人@¥1,000- 学生会員含む 単位:円			
*2 正会員160人@¥5,000- 学生会員30名@¥3,000- *5 学会大会収益, 研究集会収入, 総合型テキスト印税			
*3 10社@¥10,000- 経営学研究頒布代金			
【支出】			
項目	平成19年度予算	平成20年度予算	増減(▲減)
体育・スポーツ経営学			
研究の発行			
通信費	10,000	5,000 *1	▲ 5,000
編集会議費	100,000	70,000 *2	▲ 30,000
編集諸費	10,000	5,000 *3	▲ 5,000
印刷費	550,000	600,000 *4	50,000
発送費	40,000	50,000 *5	10,000
学会大会運営費	150,000	150,000	0
会報の発行			
編集会議諸費	5,000	0 *6	▲ 5,000
印刷費	15,000	15,000	0
発送費	15,000	20,000 *7	5,000
研究集会の開催	60,000	60,000	0
学会賞の授与			
運営費	10,000	5,000 *8	▲ 5,000
選考委員会会議費	5,000	5,000	0
記念品代	10,000	10,000	0
ホームページの運営	200,000	100,000 *9	▲ 100,000
総務費			
理事会会議費	200,000	200,000	0
事務費	140,000	160,000 *10	20,000
機関誌CD化	50,000	0 *11	▲ 50,000
学会パンフレット作成	0	60,000 *12	60,000
発送等人件費	50,000	50,000	0
予備費	1,031,549	1,275,267	243,718
合計	2,651,549	2,840,267	188,718
*1,*2,*3,*6,*8 平成19年度の実績に基づき予算減 単位:円			
*4,*5 平成18年度の実績に基づき予算増 *10 学会案内パンフレット作成の経費を計上のため予算増			
*7 平成19年度の実績に基づき予算増 *11 平成20年度作業終了につき予算削除			
*9 平成19年度大幅リニューアル終了につき予算減 *12 新規事業につき予算計上			
当期収入		当期支出	
1,490,100 円	—	1,565,000 円	=
			当期収支
			-74,900 円

特別会計

【収入】			
項目	平成19年度予算	平成20年度予算	増減(▲減)
預金金額	890,000	888,876 *1	▲ 1,124
利息	6,230	1,200 *2	▲ 5,030
合計	896,230	890,076	▲ 6,154

*1 定額貯金1口¥10,000×88口+利息¥8,876

なお、本年度より記載方法を変更し、貯金金額に元本に加え累計の利息金額を含めている。

*2 H20年度の利息見込み額

【支出】 (円)

項目	平成19年度予算	平成20年度予算	増減(▲減)
本部会計繰入	10,070	10,100 *1	30
合計	10,070	10,100	30

*1 1口(¥10,000)解約+1口分の利息金額

単位:円

890,076 円 — 10,100 円 = 879,976 円

＜全国理事会報告＞

平成19年度第2回全国理事会議事録

日時：平成20年3月16日(土) 11:00～12:30
 会場：大阪YMCA会議室
 出席者：八代(会長)、柳沢(理事長)、赤松、川崎、木村、齋藤、作野、新出、清水、浪越、原田、中路、野崎、山下、藤田、永田、関尾(幹事)、高岡(幹事)、川邊(事務局)
 欠席者：阿保、松永、藤谷、谷藤、武隈、中西、佐藤(顧問)

1. 報告事項

1) 第29回・第31回研究集会について

柳沢理事長より、資料に基づいて第29回研究集会(2/21福岡教育大)、第31回研究集会(12/15・早稲田大)実施報告が行われた。

2) 会報52号について

柳沢理事長より、会報52号の発行1月に発刊された旨が報告された。

3) 第31回学会大会について

4) 学会賞について

「民間スポーツ・フィットネスクラブにおけるヒューマン・サービス組織特性に関する実証的研究」(中西純司氏)に対して2名からの推薦があり、会長との審議の結果、理事会にて審議することとなった旨が報告された。

5) 各種委員会報告

作野広報委員長より、会報52号をメール、郵送等で配布した旨が報告された。また、メンバーシップインフォメーションを作成中である旨が報告された。清水総務委員長より、会員数(3月15日時点)が241名であり、微減となっている旨が報告された。

6) その他

柳沢理事長より、日本スポーツ体育健康科学学術連合の発足経緯と本学会が加入する旨が報告された。(財)ミズノスポーツ振興会スポーツ科学等助成金へ2件の申請があった旨が報告された。

2. 審議事項

1) 平成19年度総会議案について

清水総務委員長より、平成19年度事業報告及び収支決算報告について説明がなされた。また、収支決算については、3月8日時点の見込み決算であり、3月9日～10日に監査を受けた旨が報告された。収入については、会費納入の遅れによる減収のため今期のみ収支見込みはマイナスとなることが説明された。支出については、機関誌印刷費(600,000円)と機関誌CD化(50,000円)の重複に関する質問があり、機関紙CD化とはバックナンバー(第1巻～第20巻)をCD化する作業であることが説明された。機関誌発行の遅れの原因は、執筆の遅れであることが説明された。最終的に収支が確定した時点で監査を受けることとなった。

柳沢理事長より学会賞の提案がなされ承認された。

清水編集理事長より、機関誌の編集について進捗状況と刊行見込みが説明された。常務理事会にて、研究誌第21巻投稿論文・特集論文のHPへの全文掲載、機関紙の販売価格の変更(2,000円)、欧文校閲の学会予算での支出が承認された旨が説明された。また、バックナンバーCDの販売価格(20,000円)について提案され承認された。柳沢理事長より平成20年度事業計画案、清水総務委員長より平成20年度収支予算案について説明がなされ、総会に提案することが承認された。

清水総務理事長より、学生会員・名誉会員の 신설及び顧問の削除に関する会則改正と、会長副会長の選出方法に関する規定の 신설及び理事の選出方法に関する規定の改正について説明がなされ、承認された。名誉会員の基準については、今後総務委員会にて検討することとなった。

平成19年度の役員改選は旧規定により行われることが確認された。理事会として、会長八代勉氏、副会長松永淳一氏、阿保雅行氏を総会に推薦することが承認された。なお、平成20年度に理事の改選があるため、会長、副会長の任期は1年となることが確認された。

学生会員と臨時会員の整合性について質問があり、数年間は移行期間として両方を残しつつ、会費額等を含めて今後検討することが確認された。

2) その他

＜常務理事会報告＞

平成19年度第4回常務理事会議事録

日時：平成20年3月7日(金) 17:00～
 会場：筑波大学東京キャンパス大塚地区G205
 出席者：柳沢(理事長)、木村、作野、清水、浪越、高岡(幹事)、川邊(事務局)
 欠席者：川崎、谷藤、齋藤

1. 報告事項

7) 第29回・31回研究集会について

木村理事より、12/15(土)に早稲田大学にて開催され第31回研究集会の報告がなされた。学生を中心に計81名

の参加者があった。収入119,000円、支出114,500円であり、残金4,500円が学会事業収入となった。

清水理事より、2/21(木)に福岡教育大学にて開催された第29回研究集会にて報告がなされた。管理職クラスの教員を中心に約72名の参加者があった。収入171,000円、支出153,070円であり、残金17,930円が学会事業収入となった。

8) 会報52号について

作野理事より、会報52号が計画通り1月31日付で発行された旨が報告された。

9) 第31回学会大会について

柳沢理事より、第31回学会大会の準備の進捗状況の報告がなされた。3月上旬の時点で約80名の申し込みがあった。一般公開となる特別講演とシンポジウムに関しては、別途広報活動を実施している旨が報告された。学会大会初日の午前中に第2回全国理事会を開催することが確認された。

10) 学会賞について

柳沢理事より、1月末の期限までに論文1篇に対して2名から推薦があったことが報告された。会長との協議のうえ、第2回全国理事会にて発表することが確認された。

11) 各種委員会報告

清水編集委員長より、体育・スポーツ経営学研究第22巻の編集状況について報告がなされた。2篇の原著論文の投稿があり、現在査読中である旨が報告された。特別論文については、第1回の査読が終了し、著者返送中である旨が報告された。未だ原稿がすべて集まっておらず、年度内の発行が難しい旨が報告された。

作野広報委員長より、メンバーシップインフォメーションの原案を作成中であり、発送先リストと合わせて次年度第1回常務理事会までに原案を提示する旨報告がなされた。ホームページについては、大幅なリニューアルは行わないが、コンテンツの見直しを行う旨が報告された。

清水総務委員長より、会員数(241名:新規会員1名・退会者4名)について説明がなされた。なお、本年度は納入依頼が遅れたため会費納入が進んでいないことが報告された。

12) その他

柳沢理事長より、(財)ミズノスポーツ振興会研究助成について2件の応募があり、推薦について会長と協議中である旨が報告された。

2. 審議事項

1) 平成19年度総会事案について

清水総務委員長より、平成19年度事業報告及び収支決算の説明が行われた。なお、収入について、納入依頼が遅れたため、会費収入が予算額に対して大幅減額となっているが、本年度中には納入が増える見通しがある旨が説明された。3月中旬までの事業収入と会費収入の増額分を加えたうえで監査を受け、全国理事会に提案することが確認された。特別会計について、来年度の予算より累計ではなく年度ごとの利息額を記載することとなった。なお、特別会計の長期的な用途について理事会にて今後検討することとなった。

清水総務委員長より、平成20年度事業計画案及び収支予算案の説明がなされた。収入については、学会大会の事業収入をあらかじめ予算に組み込んだことにより、事業収入が増額となった旨が報告された。なお、来年度は賛助会員拡充を進めるため、賛助会費による収入を増額することとなった。支出については、HPの大幅リニューアルが終了したHP運営予算を削減するとともに、学会パンフレットの作成にかかわる予算を新たに総務費に計上することとなった。学生会員の新設に伴う入会金・会費収入の増加や編集会議費の圧縮により、当期の収支を改善した予算案を全国理事会に提案することとなった。

また、企画委員会の事業計画に合わせて、総会事業計画案の訂正が行われた。

会則の改正および規定の新設・改正については、学生会員と名誉会員の設置及び顧問の廃止に関する会則の改正、「会長、副会長の選出方法に関する内規」の新設と「理事選出方法の内規」の改正が行われることが、前回の常務理事会にて承認済みであることが確認された。なお、名誉会員の選出基準については今後総務委員会にて検討することとなった。

役員改選については、理事会として現八代勉会長、阿保雅行副会長、松永淳一副会長の再任を提案することが承認された。なお、理事の再任時期に合わせて、任期を1年とすることが確認された。

2) その他

体育学・スポーツ科学研究連絡委員会の発展的解散をうけて発足予定である健康・スポーツ科学関連学術連合への参加について審議がされ、参加が承認された。承認にあたり、発足の趣旨、組織の概要等が柳沢理事長より説明され、平成20年度より参加費・年会費の納入が行われることが確認された。

企画委員会より平成20年度事業計画案が提案され、承認された。承認にあたり、木村理事より平成20年度の事業計画基本方針と各事業の意図が説明された。協議の結果、基本方針に「賛助会員の拡充」を追加することとなり、掲示板の活性化と非会員への情報提供等については継続審議となった。なお、第33回学会大会については、福岡教育大学から内諾を得ている旨が報告された。

会報については、会費請求等の書類発送と合わせて原則郵送とすることが確認された。

平成20年度第1回常務理事会議事録

日時:平成20年4月26日(土) 14:00~16:00

会場:八重洲倶楽部 第9会議室

出席者:柳沢, 木村, 斎藤, 作野, 清水, 川邊(幹事)

欠席者:川崎, 谷藤, 浪越

1. 報告事項

1) 第31回学会大会について

柳沢理事長より、第31回学会大会の報告がなされた。一般公開を合わせて計150名の参加があった。収支(4月26日時点見込み額)は、収入1,077,080円、支出928,493円であった。余剰金148,587円は学会事業収入として計上。広告代等の未収金は4月末に入金予定。運営上の課題をとりまとめたうえで、次回開催の仙台大学へ引き継ぐことが確認された。

2) (財)ミズノスポーツ振興会研究助成について

柳沢理事長より、2月末の期限までに2篇の応募があり、会長との協議のうえ1篇を振興会へ申請することとなった旨が報告された。

3) 各種委員会報告

清水編集委員長より、体育スポーツ経営学研究22巻の発行が遅れる旨が報告された。投稿論文は査読の結果1編が掲載される予定であり、欧文校閲を実施する。特集論文の査読のあり方(依頼論文に対する修正等)について今後編集委員会にて協議することとなった。機関誌に掲

載する研究集会の報告については、会報に掲載した概要報告とは区別し、テーマごとの研究上の課題等を掲載することが確認された。

清水総務委員長より、平成 19 年の決算（3/31 時点見込み）について報告された。会費収入と事業収入の増加並びに支出の削減により、当期収支見込みが△¥ 817,005 から△¥ 236,073 に改善された。

2. 審議事項

1) 平成 20 年度常務理事会の役割分担について

柳沢理事長より、理事会からの顧問の削除と幹事の交代(川邊)について、研究集会ならびに第 32 回学会大会の担当者について提案された。編集委員会副委員長への中西理事の就任が承認された。

2) 平成 20 年度事業計画案について

柳沢理事長より、平成 20 年度の事業計画の基本方針が提案され、承認された。なお、会員拡充に向けた研究集会参加者の登録と情報提供(事業の案内等)については、総務委員会で個人情報保護についての規程を作成したうえで、本年度から実施することとなった。また、学会大会の準備・運営を円滑に進めるために年間スケジュールを総務委員会で作成することが確認された。32 回学会大会の日程を次回常務理事会までに確定することとなった。

作野広報委員長より会報 53 号とメンバーシップ・インフォメーション(以下 M.I.)の提案がなされた。協議の結果、会報 53 号については原案に加えて、研究集会の年間計画、機関誌 CD の広報、会員からの情報提供(地方広報委員が執筆)、特集論文のテーマを掲載することが確認され、6 月末に発行することが承認された。なお、会報の配布は、会費納入案内と合わせて会員全員に紙ベースで行うことが確認された。M.I.については、協議の結果、学会の歴史や活動内容、会員構成、会員種別の説明と入会申し込み手順を掲載することとなった。なお、理事に写真提供の依頼すること、連絡先として学会独自のメールアドレスを取得することが確認された。協議を踏まえて、次回常務理事会にて再度修正案を提案することとなった。

清水理事より、総務委員会の事業計画が提案され、承認された。なお、会費未納者の取り扱いについては、学会規模を勘案して、新入会者の動向を見つつ判断することとなり、継続審議となった。

清水理事より、編集委員会の事業計画が提案され承認された。本年度より、機関誌を年度内に発行するために投稿論文締切日を 11 月末に設定し事前に告知することとなった。特集論文については、テーマを事前に発表して会員からの投稿を募ることとなった。また、執筆依頼を行った特集論文の査読・修正について協議され、編集委員会にて再度検討することとなった。機関誌の配布については、体育・スポーツ関連の大学図書館に 1 度無料で配布したうえで購読を募ることとなった。なお、特集論文と投稿論文のみを HP に掲載することが確認された。

3) その他

本年度の理事会の日程が以下のように設定された。

第 2 回常務理事会：5 月 26 日(月)

第 3 回常務理事会：11 月 22 日(土)

第 1 回全国理事会：11 月 29 日(土)

平成 20 年度第 2 回常務理事会議事録

日時：平成 20 年 5 月 26 日(月) 18:00 ~ 20:00

会場：早稲田大学高田牧舎 2 階会議室

出席者：柳沢、木村、斎藤、清水、谷藤、川邊(幹事)

欠席者：川崎、作野、浪越

1. 報告事項

1) 第 31 回学会大会について

柳沢理事長より、第 31 回学会大会の決算報告がなされた。収入 1,077,080 円、支出 928,493 円であり、余剰金 148,587 円は学会事業収入として計上された。

2) (財)ミズノスポーツ振興会研究助成について

学会より推薦した研究が選外となった旨が報告された。

3) 日本スポーツ体育健康科学学術連合(仮称)について

柳沢理事長より、日本スポーツ体育健康科学学術連合会則(案)について報告がなされた。原案に賛成する形で世話人に回答した旨が報告された。

4) 各種委員会報告

5) その他

柳沢理事長より、第 32 回学会大会の日程が、平成 21 年 3 月 18 日(水)~ 20 日(金・祝)に決定した旨が報告された。

2. 審議事項

1) 平成 20 年度事業計画案について

8/8(金)に玉川大学にて予定されていた第 32 回研究集会(領域：学校体育)が、講師と会場の調整が難航しているため開催を延期することとなった。また、担当理事によりテーマを含め内容の再検討を行うこととなった。第 33 回研究集会(領域：地域スポーツ)について、人材と組織をテーマに 12/6(土)に東京体育館にて実施することが提案された。理事より、パネルディスカッションや問題提起の内容や人選、後援依頼、告知方法について意見が出された(「ボランティア」「市民社会」「非営利組織」等の分野から演者を招いた基調講演の実施、関東近辺の全広域スポーツセンターから後援をもらう等)。第 34 回研究集会については 12 月中の開催を視野に企画を検討中との報告がなされた。いずれの研究集会についても、今回の意見をもとに担当理事により再度企画を詰めたうえで、メールで情報を共有し、意見の集めることとなった。また、研究集会の内容を確認するため、体育学会期間中を候補として、臨時の理事会開催を検討することとなった。

2) 各種委員会より

広報委員会より、メンバーシップ・インフォメーション(案)の修正案が提案された。理事より、内容やレイアウト、写真等について意見が出された。再度修正案を作成し、メール等で理事に確認することとなった。9 月の日本体育学会までに完成させることとなった。

総務委員会より、名誉会員の推薦基準と学会大会の年間スケジュールに関する提案がなされた。名誉会員について、総務委員が基準に照らし合わせて推薦を行い理事会で決定されることが確認された。また、本人の意向により辞退できることが確認された。なお、本推薦基準については、内規としての明文化を行わないことが確認された。学会大会運営について、大会実施までのスケジュー

ールをまとめたフローチャートが提案され、各運営委員会と実行員会、学会事務局の役割分担について確認がなされた。なお、会長印が必要な書類については学会事務局にて対応することとなった。なお、理事に内容について

確認を受けることとなった。

3) その他

体育学会期間中に、臨時の全国理事会の開催することとなった。

<事務局から>

◆新入会員の紹介(敬称略:平成20年6月30日現在)

お名前	ご所属
長野 史尚	福岡大学非常勤講師
武藤 泰明	早稲田大学
山西 哲也	西濃学園
佐野 昌行	日本体育大学大学院

～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～

◆「体育・スポーツ経営学研究」投稿論文の募集

「体育・スポーツ経営学研究」に掲載する論文を随時募集中です。学会発表の内容などをおまとめいただき、投稿をお願いいたします。投稿規定に関しては学会 HP をご覧ください。

◆会費の納入について ～自動引き落としのお手続きをご希望されますか～

平成20年度会費、前年度までの未納会費のお振り込みをお願いいたします。また、会費の自動引き落としをご希望される方は、お手続きが必要となりますので事務局までご一報ください。なお、自動引き落としの手続きを済まされている方は、8月もしくは11月に指定の口座より引き落とされます。

◆「体育・スポーツ経営学研究」バックナンバーCDの販売

このたび学会誌「体育・スポーツ経営学研究」のバックナンバーCD(第1巻～第20巻)を製作いたしました。販売価格は1枚20,000円です。購入を希望される方は、事務局までご連絡ください。

◆ご住所・連絡先の変更について

ご異動等によるご住所・連絡先の変更は、Fax、Mail等にて、事務局までご一報ください。

日本体育・スポーツ経営学会 会報53号

発行日: 平成20(2008)年7月1日

発行者: 日本体育・スポーツ経営学会 会長 八代 勉

編集者: 日本体育・スポーツ経営学会 広報委員会

事務局: 〒305-8574 茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学体育経営学研究室内

TEL&FAX: 029-853-6363 E-mail: jsmpes@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

(事務局メールアドレスが新しくなりました)